

1 主題名・教材名・内容項目

【主題名】 「正直な心で」

【教材名】 「『正直』五十円分」

【内容項目】 正直、誠実

(A 主として自分自身に関すること)

2 ねらい

自分自身を偽ることなく、明るい心で伸び伸びと過ごそうとする心情を育てる。

3 目標項目との関連

「話す」ステージ5（教科につながる学習）

α「学習内容について、複文を使いながら、順序立てて話す」

4 児童生徒の実態について

本学級は、男子4名、女子2名の計6名である。国際結婚家庭の児童が半数で、そのうち1名の児童には日本語能力に課題が見られる。漢字の習得率が低かったり、日本語特有の言い回しを知らなかったりする。

学級全体の雰囲気としては、明るく活発で、学習に意欲的な学級である。授業では、自分の考えを積極的に発表することができている。特に道徳の時間には、教員に対しても友達に対しても、経験した出来事やその感想などを、積極的に伝えようとする姿勢が多くの子に見られる。

しかし一方で、話す内容をうまくまとめられなかったり、語彙が乏しく同じ言葉を何回も言ってしまう児童が多い。順序立てて話すことや、感情や様子を表す語彙の少なさに大きな課題を感じている。また、主張したい気持ちが強すぎるためか、相手の話をじっくりと聞き取ることに課題がある児童も多い。

以上のことから、児童の伝えたいという気持ちを大切にしながら、順序立てて話すことについて継続した指導をすること、様々な教科を学習する中で語彙力を高めることの必要性を感じている。また、みんなで仲間の話をしっかりと聴き、みんなで成長していく、という目標を共有し、共感的に聞く姿勢や支援的な雰囲気を育てていきたいと考えている。

5 指導にあたって

「『正直』五十円分」は、買い物におけるお金のやり取りの中で、正直な心で人と接することで、小学生の兄弟が明るい気持ちでのびのびと生活することができた、という話である。買い物やお金のやり取りは日常でもよく行われることで、児童もイメージがしやすく、自分の考えをもちやすい。その考えを順序立てて話すことができるように指導していく。

具体的には、まず児童に「正直に行動する」といいことがあるのだろうか。」と問い、子の授業で考えることを明確にする。その際に「正直」という言葉の意味を全員で確認する。

その上で問いに関係する言葉や文章を教材文から見つける活動を入れる。その時に、箇条書きやウェビングを用いて、できるだけ少ない文字数でたくさんの言葉を書き出すよう伝える。

次に全員で自分が見つけた言葉を発表し合い、問いに対する自分の意見を考える助けになるようにする。意見を考える際に、どの言葉をどの順番で話すかを考えるのが大切であることを伝え、順序立てて話ができるようにしていく。最後に自分の意見をお互いに発表し合い、「正直に行動したほうがいいのか。」という主題に迫っていきたい。

本教材を通じて、順序立てて話すことができたという実感を味わえるようにし、日常生活や他教科の中で活かそうとする態度へとつなげていきたい。また、仲間の話を全員でしっかりと聴く姿勢にこだわり、相手の考えや思いを共感的に受け止める資質を育むきっかけにしたいと考えている。

6 日本語支援について

本学級では日本語力に課題がある児童がいないため、表現力のさらなる向上を目指して三つの手立てを用意した。

一つ目は、ウェビングの日常的な活用である。道徳や国語の授業だけでなく、算数や理科の授業の中では児童が考えをまとめるときに、積極的にウェビングを活用してきている。思考を視覚化して考えをまとめると同時に、友人と思考や関連する語彙について共有させるため、思いついた単語や、教科書や資料から見つけた言葉をどんどん書くように言葉かけをしている。

二つ目は、辞書の活用である。授業の中で意味の分からない単語が出てきたときに、すぐに調べるように伝えている。調べる習慣をつけることで、日本語の知識をより増やす「言葉を広げる活動」となり、日本語力の向上につながると考える。

三つ目は、モデル文を活用した表現支援である。「私は〇〇だと思います。」「なぜなら～(根拠)」のように、モデル文をベースにして立場や考えの根拠を表現することにより、説得力のある効果的な主張ができるようになると考えている。

7 授業構成（総時数1時間）

時数	【学習活動】	【ポイント】
		○表現支援の視点 ◆バイカルチュラルの視点
導入	「正直に行動することのよさについて考える」 ●正直に行動できなかったことについて、児童の経験を振り返らせる。	◆それぞれの児童に生活経験を発表させ、共感的に聴くことを意識させる。
展開	●教材文や自分の経験から、「正直に行動することのよさ」に関係があると思う言葉を書き出す。(ウェビング) ●書き出したり、友達と共有したり	○活動に関連する語彙について、ウェビングに取り組む。それぞれの思考を視覚化する。 ○ウェビングを基に交流を行い、思考や語彙の意味を交流する。必要に応じて辞書

	した言葉をつなげて、思考を整理する。必要に応じて辞書を活用する。 ●それぞれの考えについて、根拠を明確にし、順序立てて発表する。また、それぞれの発表について疑問などを質問し、交流を深める。	を活用し、言葉を広げる活動につなげていく。 ○順序立てて話すことができるよう、モデル文を活用して、根拠を述べさせる。 ◆友達の意見をまずは受け止め、話を最後まで聞いてから質問するように伝える。
終末	●本時の振り返りをする	



【他教科、日常生活への関連】

★第4学年 国語科

学習内容	【ポイント】
	○表現支援の視点 ◆バイカルチュラルの視点
「調べて話そう、生活調査隊」 ●資料を使って、分かったことや考えたことが伝わるように話す。	○順序立てて話すことができるように、モデル文を活用して、立場と根拠を明確にして、発表原稿を考えるよう伝える。 ◆活動を通して、日本と中国の生活・文化の違いに気づかせる。

★第4学年 理科

学習内容	【ポイント】
	○表現支援の視点 ◆バイカルチュラルの視点
「雨水のゆくえ」 ●問題解決の見通しをもって、水の状態変化と気温や水のゆくえについて、根拠のある予想や仮説を発想し、表現する。	○「まず」「そして・次に」「最後に」などの文をつなぐ言葉を用いて実験方法を説明するよう指導することで、順序立てて話す力の定着を図る。 ◆運動場での実験や、デジタル教科書の活用の中で、日本と中国の小学校の違いについてふれる。

文章をぬき出してみよう。

正しいこと。でも、ついても正しい。ウソもあると思う。おなちゃんがある。おつりの華やかさ。なくとも、そこは、いいわなくとも、よかったと思います。

うそをつかない
正直
正しい
いいこと
スリッパ
自分もいい気分
ほめられる
ウソ

正直に言う
大それたおづかい
五十円返しに行く
正直
おっりをたしかめる
人ともな
かよくできる
「多分」と返して来たのは、君たち初め

正直に行動したほうが良いと思いはす。
なぜかと言うともしかすると人にめ
いれくをかけたしまうかもしれないし
正直に言ったらその人ともっとながよく
ていえるかもしれないからで"す。そして
正直に言ったらしめられたり正直の
つくりとを言わないから逃れりするからです。

⑭「正直」五十分

正直に行動した方が いいだろうか？

お金をたくさんかいた人
お父さん、お母さん、大切なお金い
正直　うー

おかしを買ったとき
正直にならば　本時の板書

友だちのお金をとれた
正直に　「言ってくれりゃいいや」

和紙 おつ 正直に　ほめられた

ふくをもちてくれた
すけは正直に　モヤモヤ　あきら

自分へ返してやる！
正直に　「ごめんね」

正直に　ほんとにうまいな。

9 考察

【成果】

- 4月から各教科や道徳の時間など、様々な学習活動の中で積極的にウェビングに取り組むことを通して、児童は、関連ある語彙をつなげてスムーズに思考を整理できるようになってきた。また、ウェビングを活用して共有し、効果的な交流ができるようになってきている。さらに、それぞれの知っている語彙を共有し、それぞれが言葉を広げる様子が見られた。
- ウェビングの活用・定着により、物事を考えるときに、まず短い言葉や文をたくさん書き、それに優先順位をつけて自分の考えを組み立てるという思考の流れが身に付いてきた。また、それを色々な教科の中でも活用できるようになってきている。
- モデル文の活用により、自分の考えを発表するとき、立場や根拠（理由）などを順序立てて話すことができる児童が増えた。また、成功経験を重ねることで自信をもって自分の考えを発表する様子が見られた。
- ◆友人の意見を最後まで聞こうとする姿勢が育ってきている。話の内容を納得する部分にはうなずいたり賛成の意思表示をしたりと、共感的に聞く様子が見られるようになってきた。

【課題】

- 自分の考えを組み立てるときの優先順位のつけ方に課題がある。結論を最後にしていたり、内容がまとまっていなかったりすることがあるので、日常生活や他教科の中でできるようになってきていることの確実な定着を目指し、指導・支援に力を入れたい。
- 効果的な文章を書けるようになってきている反面、準備した原稿を読み上げるだけの発表が目立ちだしている。キーワードを中核にして、自分の言葉で話す力を身につけさせたい。
- ◆友達の考えを聞くことにまだまだ課題がある。結論を聞き逃していたり、自分と違う意見を受け入れられなかったりする場面が見られる。友人の意見をしっかりと聴いて受け止め、自身の考えを深めることができるよう、聴く力の育成を図る必要がある。

【まとめ】

本活動の中で、ウェビングやモデル文の活用をすることにより、表現力の育成を図ることができた。また、ウェビングを通して交流することで、互いに知っている語彙を共有し、言葉を広げる活動につなげることができた。何より、児童たちの積極性・学習意欲を高めながら、効果的な学習につなげることができたことが、大きな成果だと考えている。今後もあらゆる教科で「自分の考えを発表する」ことを大切に、それに取り組む時間を増やしていきたい。

またバイカルチャラルの視点からは、自分と異なる考えを受け入れるには、相手の考えをよく聞き、わからないところがあったら質問して理解することが必要だと気づくことができた。児童の話を書く力の向上も必要なので、話を聞くとときに気をつけることをこれからも児童に伝え続けていきたい。

【参考文献】

- 『外国人児童生徒の学びを創る授業実践』（編）齋藤ひろみ・池上摩希子・近田由紀子
くろしお出版 2015年6月1日 第1刷発行
- 『海外で学ぶ子供の教育』（著）佐藤邦衛・上野美穂・近田由紀子・渋谷真樹 他
明石書店 2020年8月20日 第1刷発行